



Valentine's Day：授業アイデア ア（簡単版）

バレンタインデーをテーマにした英語の授業アイデア 5本

Class

No.

Name

1. 「誰が誰に？」世界のバレンタイン矢印マップ

中学・20分

🌀 国ごとの「贈る人・もらう人・贈る物」のちがいを英語で読み取り、説明できる。

1. 国別くらの英文（アメリカ・日本・韓国・台湾・フィンランドなど）をカードにして班に配る。
2. 白地図に、その国で「誰から誰へ」贈るかを矢印と絵で描き込む。
3. In Taiwan, men give gifts to women. のように、1班1文ずつ発表する。
4. いちばん驚いた国を選び、理由を英語で一言書く。

2. Roses are red... オリジナル詩カードづくり

小学校・25分

🌀 英語の定番の詩の形をまねて、色の単語と形容詞を使った短い詩を書く。

1. Roses are red, violets are blue, sugar is sweet, and so are you. をリズムよく音読する。
2. 色の単語と、sweet / kind / funny などの形容詞をカードで確認する。
3. 後半2行を自分で作り、友だち・家族・先生あてのカードに書く。
4. カードを交換して、声に出して読み合う。

3. 義理チョコ、続ける？やめる？ミニディベート

高校・40分

🌀 身近な習慣について、理由と例を挙げて英語で意見を述べる。

1. advanced の英文とゴディバの広告の話（2018年）を読み、背景をつかむ。
2. 肯定側（Giri choco should continue.）と否定側に分かれ、理由を3つずつ英語で書く。
3. 立論1分・質問1分・反論1分の短いディベートを行う。
4. 最後に自分の本当の意見を3文で書く。

4. バレンタイン年表ならべかえレース

中学・15分

🌀 年号と出来事を結びつけ、過去形の文を正しく読む。

1. In 1477, Margery wrote a letter to her Valentine. などの英文カード8枚を配る。
2. 班で古い順に並べ、最も早く正しく並べた班の勝ち。
3. 答え合わせで、日本のバレンタイン（1936年・1958年）がどこに入るかを確認する。

5. 「企業が作った記念日」を分析しよう

大学・60分

🌀 記念日と商業の関係を、複数の国の事例から英語で分析・発表する。

1. 日本のバレンタイン、ブラジルの恋人の日、韓国のブラックデーなどを分担して調べる。
2. 誰が始めたか・なぜ広まったか・今どう変わっているかを表にまとめる。
3. A holiday made by marketing can become a real tradition. という主張に対し、賛否を5分で発表する。
4. 他の班の発表に英語で質問し、共通点をまとめる。



1. 「誰が誰に？」世界のバレンタイン矢印マップ

授業手順書（詳細版）／対象：中学／20分

Class _____ No. _____ Name _____

🎯 ねらい

国ごとの「贈る人・もらう人・贈る物」のちがいを英文から読み取り、In ～, men give gifts to women. のように英語で説明できる。

📦 準備

- 国別くらべの英文カード6枚（アメリカ・日本・韓国・台湾・フィンランド・デンマーク）。記事の国別くらべの英文をそのまま使う
- A3の白地図（班に1枚）と色ペン
- 男性・女性・友だち・クラスメートの小さな絵カード（矢印の両はしに貼る用）
- このサイトの英語ページ本文（第4・第5段落）と音声

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	3	「日本のバレンタインでは、だれがだれにチョコをあげる？」と聞き、黒板に「女性→男性」の矢印をかく。英語ページ本文の第4段落（アメリカ）を聞かせ、「アメリカでは？」と矢印が両方向になることを確かめる。	日本とアメリカのちがいを答え、矢印の表し方を知る。	"In Japan, who gives chocolate to whom?" "Yes. Women traditionally give chocolate to men." "Listen. What about the United States?" "Men and women both give gifts. So the arrow goes both ways."
展開1	7	班に英文カードと白地図を配る。各カードを読んで、その国で「誰から誰へ」「何を」贈るかを、矢印と絵で地図にかきこませる。韓国の4月14日（ブラックデー）やデンマークのなぞなぞの手紙など、贈り物以外の習慣にも気づかせる。	英文カードを読み、国ごとの贈る人・もらう人・贈る物を地図に矢印と絵でかく。	"Read each card. Who gives? Who gets? What do they give?" "Draw arrows on the map." "In Finland, it is Friend's Day. Who gets the cards?" "What do single people eat in Korea on April 14?"
展開2	6	1班1文ずつ発表させる（In Taiwan, men give gifts to women. / In Finland, people send cards to their friends. など）。発表に合わせて先生が黒板の地図に矢印をかき、クラス全体の矢印マップを完成させる。	担当の国について、矢印マップをもとに英語で1文発表する。	"Each group, tell us about one country." "In Taiwan, men give gifts to women. Is that right? Good." "Look at the big map. Which country is the most like Japan?"
まとめ	4	いちばん驚いた国を1つ選ばせ、I was surprised by ～ because ～. の形で理由を英語で一言書かせる。何人かに読んでもらって終わる。	いちばん驚いた国とその理由を英語で一言書き、発表する。	"Which country surprised you the most?" "Write one sentence. I was surprised by Denmark because people send funny poems." "Who wants to read?"

📝 板書例

Who gives to whom?

JP Japan : women → men (March 14 White Day : men → women)

us the U.S. : men ⇄ women, children → every classmate

KR South Korea : Feb 14 women → men, Mar 14 men → women, Apr 14 Black Day (black noodles)

TW Taiwan : men → women (White Day : women → men)

FI Finland : Friend's Day → friends

DK Denmark : funny poems with dots

In _____, _____ give gifts to _____.

I was surprised by _____ because _____.

✅ 評価のポイント

- 英文カードから「贈る人・もらう人・贈る物」を正しく読み取り、地図に表せたか。
- In ～, A give(s) B to C. の形で正しく発表できたか。
- 驚いた理由を because を使って英語で書けたか。

💡 つまづきへの手だて

- 読むのが苦手な生徒には、カードの give / send / to などの語に色をつけておく。
- 矢印のかき方がわからない班には、日本の例を地図に先にかいておく。
- 理由の英文が書けない生徒には、because people ～. の後半だけ書けばよいとする。

🚀 発展

- ガーナでは2005年から2月14日が「国民チョコレートの日」であることを紹介し、カカオの産地がなぜこの日を選んだかを考えさせる。
- フィリピンの集団結婚式、ウェールズの1月25日など、ほかの国のカードを追加して地図を広げる。
- 基本セット p.7 の Find Someone Who (knows the date of White Day など) で、クラスでたずね合う。

📖 使う教材

- このサイトの英語ページ本文（第4・第5段落）と音声
- アクティビティ集 B5（国くらべ）
- 基本セット p.7（Find Someone Who）



2. Roses are red... オリジナル詩カードづくり

授業手順書（詳細版）／対象：小学校／25分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

Roses are red, violets are blue のリズムをまねて、色の言葉と形容詞を使った短い詩を書き、声に出して読める。

準備

- 詩の掲示用ポスター：Roses are red, / Violets are blue, / Sugar is sweet, / And so are you.
- 色の言葉のカード（red, blue, yellow, green, pink, white）と、その色の物の絵（rose, violet, banana, apple, sky など）
- 形容詞カード（sweet, kind, funny, cool, cute, strong）
- 画用紙のカード（1人1～2枚）と色えんぴつ

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	バラとスマイルの写真を見せ、詩のポスターを先生がリズムよく読む。手拍子をつけて全員で2～3回音読し、blue と you の音がそろっていること（韻）に気づかせる。	手拍子に合わせて詩を音読し、blue と you の終わりの音が同じであることに気づく。	“Look. This is a rose, and this is a violet.” “Listen to my poem. Roses are red, violets are blue ...” “Let's read it together with claps.” “Blue, you. Do they sound the same?”
展開1	5	色の言葉カードと物の絵を組み合わせ、Bananas are yellow. / Apples are red. という練習をする。形容詞カードを見せ、意味をジェスチャーで確かめる（sweet＝なめるまね、funny＝笑う、など）。	色と物の組み合わせを英語で言い、形容詞の意味をジェスチャーで確かめる。	“Bananas are ... yellow! Apples are ... red!” “What is sweet? Sugar is sweet. Chocolate is sweet.” “Kind, funny, cool. Let's do the gestures.”
展開2	10	前半2行（Roses are red, violets are blue,）はそのまま使い、後半2行を自分で作らせる。3行目は「物＋is＋形容詞」、4行目は And so are you. のままでよい。友だち・家族・先生など、だれあてのカードかを決めて、絵もかかせる。	後半2行を自分で選んで詩を完成させ、相手を決めてカードに書き、絵をかく。	“Keep the first two lines. Change line three.” “For example: Chocolate is sweet, and so are you.” “Or: My dog is funny, and so are you.” “Who is your card for? Your friend? Your family?”
まとめ	5	クラスの友だちあてのカードを交換し、もらったカードを声に出して読ませる。読んでもらった子は Thank you! と返す。家族あてのカードは持ち帰らせる。	カードを交換して声に出して読み、Thank you! と伝え合う。	“Give your card to your friend.” “Read the poem out loud.” “Say, Thank you! It's a nice poem.”

板書例

Roses are red,
Violets are blue,
Sugar is sweet,
And so are you.

red yellow green white
sweet kind funny cool cute strong

Roses are red,
Violets are blue,
_____ is _____,
And so are you.

評価のポイント

- 詩をリズムよく音読できたか。
- 3行目を「物＋is＋形容詞」で書けたか（カードで確認）。
- 友だちのカードを声に出して読み、Thank you! と返せたか。

つまづきへの手だて

- 書くのが難しい子には、3行目の物と形容詞をカードから選んで書き写させる。
- つづりに時間がかかる子には、基本セット p.8 のなぞり書きで詩の前半をなぞらせてから取り組ませる。
- 相手が決まらない子には、先生あてや家族あてのカードをすすめる。

発展

- 早く終わった子は、2行目の色も変えて、もう1枚作る（Roses are red, the sky is blue, など）。
- アメリカではクラス全員にカードを配ることを紹介し、Happy Valentine's Day! のカードをクラスの全員に書く日を計画する。
- 基本セット p.7 の作文（Roses are red, violets are blue, _____, and so are you.）に清書する。

使う教材

- 基本セット p.7（作文）
- 基本セット p.8（なぞり書き・ぬりえ）
- 基本セット p.3（マッチング：rose・chocolate・letter など）



3. 義理チョコ、続ける？やめる？ミニディベート

授業手順書（詳細版）／対象：高校／40分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

義理チョコという身近な習慣について、理由と例を挙げて英語で意見を述べ、短いディベートで質問・反論ができる。

準備

- advanced の英文「A Holiday Made by Marketing?」（このサイトの発展セット）
- 2018年のゴディバ・ジャパンの新聞広告（「日本は、義理チョコをやめよう。」）の紹介文
- 立論メモのワークシート（理由3つ・例・予想される反論）
- タイマー、ディベートの進行表

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	8	advanced の英文の第2段落を読ませ、義理チョコが1980年代に広まった背景と、2018年のゴディバ・ジャパンの広告を確かめる。「チョコを売る会社が『やめよう』と言った」意外さに注目させる。	英文を読み、義理チョコの背景と2018年の広告の内容をつかむ。	"Read paragraph two. When did giri choco spread?" "Why did it spread in the 1980s?" "In 2018, Godiva Japan asked people to stop giving obligation chocolate." "Why is that surprising?"
展開1	10	肯定側（Giri choco should continue.）と否定側に分かれ、チームで理由を3つずつ英語で書かせる。理由には例や本文の内容を1つ以上入れるよう指示する。相手の反論も予想させる。	チームで、自分の立場の理由を3つ英語で書き、相手の反論を予想する。	"Here is the motion. Giri choco should continue." "This side is for, and that side is against." "Write three reasons. Give an example for each one." "What will the other team say? Prepare an answer."
展開2	14	立論1分（各チーム）→ 質問1分（各チーム）→ 作戦タイム2分 → 反論1分（各チーム）の順でディベートを行う。残りの時間で、聞き手の生徒に「どちらの理由が説得力があったか」を一言ずつ言わせる。	立論・質問・反論を英語で行う。聞き手はどちらが説得力があったかを判断する。	"For team, one minute. Please start." "Against team, ask one question." "Now the rebuttals. Answer their strongest point." "Which team gave better reasons? Why?"
まとめ	8	チームの立場とは別に、自分の本当の意見を3文で書かせる（意見・理由・例）。何人かに発表してもらい、職場の習慣が時代とともに変わることにつれて終わる。	自分の本当の意見を英語3文で書き、発表する。	"Now forget your team. What do you really think?" "Write three sentences. Your opinion, a reason, and an example." "Who wants to share?"

板書例

Giri choco (obligation chocolate)
1980s : more women working in offices → a way to manage relationships at work
→ many women came to see it as a burden
2018 : Godiva Japan 「日本は、義理チョコをやめよう。」

Motion : Giri choco should continue.
立論1分 → 質問1分 → 作戦2分 → 反論1分

I think ____ because _____. For example, _____.

評価のポイント

- 本文から、義理チョコが広まった背景と負担に感じられるようになった流れを読み取れたか。
- ディベートで、理由と例をセットにして英語で述べられたか。
- 自分の意見を、意見・理由・例の3文で書けたか。

つまづきへの手だて

- 英文が読みにくい生徒には、このサイトの英語ページの和訳を参照してよいとする。
- 理由が出ないチームには、お金・時間・人間関係・お店の売り上げ、という観点を示す。
- 英語で反論するのが難しい生徒には、That's true, but ... / I don't think so because ... の型を配る。

発展

- 英語ページの会話（エマとハルト）の Now many people just buy expensive chocolate for themselves. を読み、「自分チョコ」が広まった理由を考える。
- 友チョコ・自分チョコの広まりを、本文最後の such as gifts for friends or a treat for oneself と結びつけて説明する。
- 発展セットの debate（論題：A holiday made by marketing can become a real tradition.）に挑戦する。

使う教材

- 発展セット（advanced の英文と問題）
- このサイトの英語ページの会話と音声



4. バレンタイン年表ならべかえレース

授業手順書（詳細版）／対象：中学／15分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

年号と出来事を結びつけ、過去形の英文を正しく読んで、バレンタインの歴史を古い順に並べられる。

準備

- 英文カード8枚（班に1セット）：In the 1380s, Chaucer wrote a poem about birds. / After 1415, a French duke wrote valentine poems in an English prison. / In 1477, Margery wrote a letter to her Valentine. / In 1797, a book of valentine letters came out in Britain. / In 1840, cheap stamps started a card boom in Britain. / Around 1847, Esther Howland sold paper lace cards in the U.S. / In 1868, Cadbury sold chocolate in a heart-shaped box. / In 1969, the Catholic Church took Saint Valentine off its main calendar.
- 日本のカード2枚：In 1936, Morozoff put a Valentine's chocolate ad in an English newspaper. / In 1958, a Tokyo department store sold only three chocolate bars and one card.
- ストップウォッチ

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	2	「バレンタインはいつから恋の日になった？」と聞き、予想を出させる。カードには年号と過去形の文が書いてあることを伝え、ルール（古い順に並べ、全部そろったら手をあげる）を説明する。	予想を出し、レースのルールを聞く。	“When did Valentine's Day become a day of love? Guess.” “Put the eight cards in order, from the oldest to the newest.” “When you finish, raise your hands. Ready, go!”
展開1	6	班で8枚のカードを古い順に並べさせる。速さだけでなく、1枚ずつ声に出して読み合うことをルールにする。早くできた班の順番を記録する。	班でカードを読み合い、古い順に並べる。	“Read each card out loud in your group.” “Look at the years. Which is the oldest?” “Finished? Let me check.”
展開2	4	答え合わせをする。1枚ずつ全員で読み、wrote / sold / startedなどの過去形を確かめる。最も早く正しく並べた班を発表する。	全員で英文を読みながら答えを確かめ、過去形の動詞に下線を引く。	“Let's check. Number one. In the 1380s, Chaucer wrote a poem about birds.” “Wrote is the past form of write.” “And the winner is group three!”
まとめ	3	日本のカード2枚（1936年・1958年）を配り、年表のどこに入るかを考えさせる。1868年と1969年の間に入ることを確かめ、1958年の売り上げが3日間で170円だった話で終わる。	日本の2枚のカードを年表の正しい位置に入れる。	“Here are two cards about Japan. Where do they go?” “Yes, between 1868 and 1969.” “In 1958, the shop sold only three chocolate bars and one card!”

板書例

Valentine's Day timeline

1380s Chaucer wrote a poem about birds.
1415~ a French duke wrote poems in prison.
1477 Margery wrote a letter.
1797 a book of valentine letters
1840 cheap stamps → card boom
1847ごろ paper lace cards
1868 heart-shaped box
★1936 Morozoff ad (Kobe)
★1958 Tokyo : 3 chocolate bars and 1 card
1969 Saint Valentine off the main calendar

write → wrote / sell → sold / start → started

評価のポイント

- 年号の読み方と過去形の英文を正しく読めたか（班での読み合いの見取り）。
- 8枚のカードを正しい順に並べられたか。
- 日本の2枚を年表の正しい位置に入れられたか。

つまづきへの手だて

- 年号の読み方（1477=fourteen seventy-seven）を黒板に1つ例として書いておく。
- 英文が読めない生徒も参加できるよう、まず年号だけを見て並べてよいとする。
- 過去形がわからない語は、カードの裏に原形を書いておく。

発展

- 1477年のマージェリーの手紙が英語で最古のバレンタインの手紙であることを紹介し、Be my Valentine. の意味を考える。
- 基本セット p.6 の並べかえで、本文の文を作る練習をする。
- アクティビティ集 B2 すごろくのマスに年表の出来事を入れて遊ぶ。

使う教材

- 基本セット p.6（迷路・並べかえ）
- アクティビティ集 B2（すごろく）
- アクティビティ集 B4（カード：英文カードとして印刷）



5. 「企業が作った記念日」を分析しよう

授業手順書（詳細版）／対象：大学／60分

Class _____

No. _____

Name _____

ねらい

日本のバレンタイン、ブラジルの恋人の日、韓国のブラックデーなどの事例を調べ、記念日と商業の関係を英語で分析・発表できる。

準備

- advanced の英文「A Holiday Made by Marketing?」（このサイトの発展セット）
- 分担カード：①日本のバレンタイン（1936年・1958年）②日本のホワイトデー（1980年代）③ブラジルの恋人の日（6月12日、1949年ごろ）④韓国のブラックデー（4月14日）
- 分析表（誰が始めたか・なぜ広まったか・今どう変わっているか・出典）
- スマートフォンまたはPC（調べる用）、発表用のスライドまたは模造紙

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	advanced の英文の第1段落を読ませ、「バレンタインはチョコ会社が作った」という冗談がどこまで本当かを確かめる。最後の段落の Holidays may be started by businesses, but they last only when people find their own meaning in them. を示し、今日の分析の視点にする。	本文を読んで日本のバレンタインの始まりを確かめ、分析の視点をつかむ。	"Many people joke that chocolate companies invented Valentine's Day. Is it true?" "Read paragraph one. What happened in 1936?" "Look at the last paragraph. When do holidays last?"
展開1	15	4つの班に分担カードを配り、担当の記念日について調べさせる。本文と記事の国別くらべ・年表を出発点にし、ネットの情報には出典を記録させる。「～といわれる」レベルの情報は、そう書き分けるよう指示する。	担当の記念日について調べ、出典とともにメモする。	"Research your holiday. Start with the passage and the article." "Write down your sources." "If something is only a story, say 'It is said that ...'"
展開2	10	分析表（誰が始めたか・なぜ広まったか・今どう変わっているか）にまとめさせ、A holiday made by marketing can become a real tradition. という主張に対する班の立場（賛成・反対・条件つき賛成）を決めさせる。5分の発表を準備させる。	調べた内容を分析表にまとめ、主張への立場を決めて発表を準備する。	"Fill in the table. Who started it? Why did it spread? How is it changing?" "Now decide your position on this claim." "A holiday made by marketing can become a real tradition." "Prepare a five-minute presentation."
展開3	20	各班が5分ずつ発表する。聞き手は、ほかの班の記念日との共通点をメモしながら聞き、発表後に英語で質問を1つずつする（時間内に収まるよう、質問は先生が2つまでに絞る）。	5分で発表し、ほかの班の発表を聞いて共通点をメモし、英語で質問する。	"Group one, you have five minutes." "Listeners, note the things that are the same in every holiday." "Any questions? Please ask in English."
まとめ	10	4つの事例の共通点（売り上げの少ない時期・お店の宣伝・人々が自分なりの意味を見つけたか）をクラスでまとめる。最後に、友チョコ・自分チョコのように「意味が変わって続く」例を挙げ、各自が主張への最終的な意見を2～3文で書いて提出する。	共通点をクラスでまとめ、主張への最終的な意見を英語で書く。	"What do all four holidays have in common?" "Did people find their own meaning in them?" "Write your final opinion in two or three sentences."

板書例

A Holiday Made by Marketing?

事例 / 誰が始めた / なぜ広まった / 今どう変わる

Japan Valentine's : Morozoff ad 1936 → department stores, confectioners / honmei → giri → tomo, jibun

Japan White Day : 1980s / gifts back / ?

Brazil Lovers' Day (June 12) : ad campaign around 1949 / slow month / ?

Korea Black Day (April 14) : ? / single people eat black noodles / ?

Claim : A holiday made by marketing can become a real tradition.

→ "They last only when people find their own meaning in them."

評価のポイント

- 担当の記念日について、出典を示しながら事実と「～といわれる」を区別して調べられたか。
- 分析表の3つの観点を使い、主張への立場を根拠とともに発表できたか。
- ほかの班の発表との共通点を見つけ、英語で質問できたか。

つまづきへの手だて

- 調べる時間が足りない班には、記事の国別くらべと年表を印刷して渡す。
- 発表の構成に迷う班には、事例紹介 → 分析 → 立場 → 結論の4枚のスライドの型を示す。
- 質問しにくい学生には、Why do you think ...? / Is there any data about ...? の型を配る。

発展

- 発展セットの summary と paraphrase に取り組む。
- ガーナの「国民チョコレートの日」（2005年から2月14日）のように、国がかかわって作った記念日も調べ、企業が作った記念日と比べる。
- 日本のほかの「企業が作ったといわれる記念日」を1つ選び、本文の主張にあてはまるかを検討する短いレポートを書く。

使う教材

- 発展セット（advanced の英文と問題）
- このサイトの記事の国別くらべ・年表